若手教員支援サイト

学級担任のまなざし　07

Okayama Prefectural　Education Center

R2.6.16[Tue]

「心の在り方次第で」

　ある学級での道徳の授業です。担任が授業の終末で、ある住職さんがされていた話を紹介しました。

「ある人が地獄に行ったというのです。一面の花畑。川もきらきら輝いて、魚も泳いでいます。鳥もさえずり、本当に美しいところなのです、地獄なのに。
　立派な建物に入ると、たくさんの人がいました。みんなきれいな着物を着て、食卓を囲んでいます。豪華なごちそうが並んでいます。でも、ちょっと変なんです。『もっと食べたい、おなかがすいた』といううめき声が聞こえるのです。よく見ると、みんな手に1メートルの長さの箸を握っているのです。そして、一生懸命にその箸で食べようとするのですが、箸が長すぎて口に届かないのです。だから、『もっと食べたい』と言っていたのです。」
「次に案内されたのは、天国でした。先ほどの地獄と全く同じような風景でした。ただ、地獄と違うのは、みんな料理を食べているのです。そして、幸せそうなのです。」

　子どもたちは担任の話を聞きながら、ニコニコとうなずいていました。「わかった！」という声も上がりました。「天国の人は、自分で食べようとしていたのではなく、お互いに食べさせていたのでは」という発言もありました。

「助け合い、支え合う」ことが天国であるというのなら、天国や地獄というのは一人一人の心の中にあるのではないかと思いました。そして、自分の心の在り方次第で、心は天国にも地獄にもなるのだと思いました。
　授業のまとめをした後、担任が尋ねました。「住職さんの話からすると、この学級は天国でしょうか、地獄でしょうか。」